ISSN 1881 － 980X

一般社団法人日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発　行：隅田　学
事務局：中西印刷株式会社　学会部内
URL：*http://www.jsse.jp*

2023.2.15
NO.261

科学教育研究レター



目　次

■ **学会賞** ……2
2023（令和 5）年度学会賞候補者の募集
■ **年会** ……3
第 47 回年会開催案内（第 3 次）
■ **国際交流委員会だより** ……7
国際学会参加報告(66) 2022 EASE International Conference
国際学会開催情報
■ **若手活性化委員会だより** ……9
2022 年度 日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催）　報告
■ **編集委員会だより** ……11
「科学教育研究」編集状況報告
「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況
■ **広報委員会からのお知らせ** ……13

学会賞

公示

2023（令和 5）年度学会賞候補者の募集

一般社団法人日本科学教育学会　大塚賞，同学術賞，同国際貢献賞，同論文賞，同科学教育実践賞，同功労賞，及び同奨励賞の候補者を下記により募集します．会員の皆様からの多数の推薦をお願い申し上げます．

1. 推薦期限

2023 年（令和 5 年）5 月 15 日（月）（必着）

2. 推薦資格

(1) 推薦者は会員とする．

(2) 会員は，各賞について，それぞれ 1 件のみ推薦できる．

(3) 各賞の推薦は他薦のみとする．

(4) 推薦者は，推薦書の様式を学会ホームページ（「各書式」からダウンロード可）で，入手の上，その様式にしたがって作成した推薦書を学会事務局に提出する．

3. 受賞資格

一般社団法人日本科学教育学会　学会賞表彰規程（https://jsse.jp/regulation/26-2）を参照する．

4. 受賞件数

各賞の受賞件数は特に定めない．

5. 選考

会員からの推薦に基づいて，学会賞選考委員会が候補者を選定し，理事会が決定する．

6. 賞

(1) 本賞は賞状とする．

(2) 賞の贈呈は，2023 年度代議員総会において行う．

7. 備考

論文賞の対象は，『科学教育研究』Vol.44，No.2 以降に掲載の論文とする．また，奨励賞の対象は，『科学教育研究』Vol.45，No.2 以降，『研究会研究報告』Vol.35，No.6 以降及び第 45 回・第 46 回年会論文集に掲載の論文等とする．

第 47 回年会 開催案内（第 3 次）

年会企画委員会・年会実行委員会

1．日程：2023 年 9 月 18 日（月・祝）～20 日（水）（3 日間を予定）

2．会場：愛媛大学城北キャンパス
（〒790-8577　愛媛県松山市文京町 3）
https://www.ehime-u.ac.jp/about/access/

3．連絡先：日本科学教育学会第 47 回年会実行委員会
E-mail：jsseehime47 [at mark] ed.ehime-u.ac.jp

4．スケジュール概要（予定）※プログラム編成により変更になる場合があります.
18 日（月）午前：研究発表
午後：研究発表　理事会　顧問・理事・支部長・代議員合同会議
19 日（火）午前：研究発表　招待講演（科学教育研究セミナー）
午後：代議員総会・表彰　シンポジウム　懇親会
20 日（水）午前：研究発表
午後：研究発表（申し込み状況により設定）
※その他，各委員会による企画，各委員会の会合等があります.

5．内容：次の内容を予定しています.
(1) 招待講演（科学教育研究セミナー）
(2) シンポジウム
(3) 課題研究発表
(4) 一般研究発表
(5) インタラクティブセッション
(6) その他の企画
※年会のタイムテーブルは，2023 年 3 月下旬に年会 Web サイトにて公開予定.

6．発表申込等について
(1) 課題研究発表の申込・原稿提出
特定のテーマについて徹底的に議論できる場とします．企画をお持ちの方は応募ください.
なお，昨年と同様に年会開催日が例年に比べ，遅くなっていますので，企画応募締切は例年より遅く

なっています.

＜スケジュール（予定）＞

・企画応募締切：2023年5月26日（金）【オーガナイザー → 年会企画委員会】

・受理審議：2023年5月29日（月）～6月2日（金）【年会企画委員会】

・審議結果報告：2023年6月5日（月）【年会企画委員会 → オーガナイザー】

・原稿提出期間：2023年6月7日（水）～6月30日（金）【オーガナイザー → アップロード】

※ 6月30日（金）は，登壇者がオーガナイザーに提出する期限ではなく，オーガナイザーが登壇者全員の原稿をとりまとめて年会企画委員会に提出（「JSSE年会申込Webサイト」からアップロード）する期限です．なお，登壇者自身でアップロードすることも可能になりました．従前どおり，オーガナイザーが全員分を取りまとめてアップロードいただくか，登壇者自身でアップロードいただくか，どちらかの方法でご提出ください.

＜企画応募方法＞

・年会Webサイト掲載の方法で，申し込んでください.

＜原稿提出方法＞

・年会Webサイト掲載の方法で，「JSSE年会申込Webサイト」から必要事項を記入の上，完成原稿（発表1件あたり4ページまたは2ページ）のPDFファイル（1ファイル約1MB未満，セキュリティなし）を提出（アップロード）してください.

＜応募に当たっての留意事項＞

・オーガナイザー資格：会員でなければなりません.

・登壇者：登壇者を企画受付締切までに確定してください．課題研究発表での登壇は1回とし，登壇者の重複はできません．登壇を依頼される場合には，当該登壇者が他の課題研究発表と重複ができない点を周知・確認した上で確定するようにしてください．なお，登壇者とは別に指定討論者を立てる場合には，申請用紙に記入してください．指定討論者については，重複を認めます.

・登壇者資格：登壇者は会員，非会員を問いません．ただし，非会員による発表件数は，原則として当該課題研究における全発表件数の半数を超えないものとします．やむを得ずに半数を超える場合は，企画受付締切までにその理由を申請用紙に添えて申し込んでください．非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えた場合で理由書の添付されていない企画は受理されません．非会員の発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えている企画について受理するかどうかは，年会企画委員会で審議します．なお，受理された企画であっても，受理後に登壇者の変更がなされ，非会員による発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えた場合，受理が取り消される場合もありますので，ご留意願います.

(2) 一般研究発表・インタラクティブセッションの申込・原稿提出

＜スケジュール（予定）＞

・申込及び原稿提出期間：2023年6月7日（水）～6月30日（金）

※申込と原稿提出を同時に行ってください.

※期日等に変更が生じた場合は，学会Webや科学教育研究レターなどで通知します.

＜申込及び原稿提出方法＞

・年会Webサイト掲載の方法で，「JSSE年会申込Webサイト」から必要事項を記入の上，完成原稿のPDFファイル（1ファイル約1MB未満，セキュリティなし）を提出（アップロード）してください.

・書式や留意事項等の詳細は，「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要項」をご覧ください.

＜資格・登壇可能件数＞

・登壇者資格：会員でなければなりません.

※本欄における「会員」とは，学会事務局が入会申込書の受付を済ませていることを意味します．ただし，発表申込及び原稿提出期間と年会開催日程が学会の事業年度（毎年7月1日から翌年6月30日）をまたぐため，入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については，発表申込及び原稿提出期間の年度ではなく，年会が開催される新年度からの入会でも可とします.

・登壇者として申込可能な一般研究発表・インタラクティブセッションの件数は，各1件です．なお，一般研究発表・インタラクティブセッションの登壇者は，課題研究，その他の企画にも登壇することができます.

＜発表時間＞

・一般研究発表の持ち時間は20分程度（発表15分，質疑・討論5分）を予定しています.

・インタラクティブセッションは2時間の発表時間を設定する予定です.

(3) 年会論文集原稿の執筆内容に関する留意事項

原稿執筆にあたっては，次の要件を満たすように心がけてください.

◆研究領域

日本科学教育学会の会員が関心を持つ研究領域の研究である.

◆主題または問題の所在

問題の所在が明快である.

◆研究の背景

関連研究，依拠する理論，関連する実践等によって，研究の背景が明示されている.

◆研究の方法

研究の方法論，手順，計画などが適切で，それらが明示されている.

◆結果と知見

得られた結果，知見，アイデア等が明示されている.

◆結論

問題の所在に即した結論や課題が明示されている.

7．各委員会等による企画

(1) 若手活性化委員会

・18日（月）の午後にかけて，チュートリアルを計画中です.

(2) 国際交流委員会

・19日（火）の昼に，国際ランチョン・ミーティングを計画中です.

8．年会の開催形態等について

・第47回年会は，現地（愛媛大学）開催を基本としたハイフレックス開催を予定しています．インタラクティブセッションは，対面のみで実施します．ただし，新型コロナウィルスの感染状況によっては，完全オンライン開催に変更する可能性があります.

・オンラインでの参加・発表による開催になった場合，各自でオンライン会議システムZoom等が利用できる機器（パソコン・タブレット，イヤホン，マイク）の準備をお願いします.

・要旨集（プログラム）・論文集は，電子的方法にて配布いたします.

・会期中に台風・地震などの災害が起こった際や，新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が

現地で発令された際の中止や開催方法の変更等の対応につきましては,開催校である愛媛大学の規定等を準用して判断し，年会Webサイト等を通じてご案内します.

9. 第47回年会実行委員会

委 員 長　向　平和（愛媛大学）
副委員長　吉村直道（愛媛大学）
委　　員　赤松　直（高知大学）・秋田美代（鳴門教育大学）・安部利之（愛媛大学）
大西義浩（愛媛大学）・大橋淳史（愛媛大学）・河村泰之（愛媛大学）
観音幸雄（愛媛大学）・佐伯昭彦（鳴門教育大学）・佐野　栄（愛媛大学）
玉井輝之（愛媛大学）・中城　満（高知大学）・中村依子（愛媛大学）
中本　剛（愛媛大学）・林　敏浩（香川大学）早藤幸隆（鳴門教育大学）
原本博史（愛媛大学）・細田宏樹（愛媛大学）・森　慎之助（愛媛大学）
笠　潤平（香川大学）

10. 年会企画委員会

委 員 長　山本智一（兵庫教育大学）
副委員長　川上　貴（宇都宮大学），服部裕一郎（岡山大学）
幹　　事　神山真一（大阪体育大学）
担当理事　瀬戸崎典夫（長崎大学），大谷忠（東京学芸大学）
委　　員　石橋一昴（岡山大学），江草遼平（千葉商科大学），
小野寺かれん（京都光華女子大学），川崎弘作（岡山大学），
木村優里（明治学院大学），小泉健輔（群馬大学），
高井吾朗（愛知教育大学），中原久志（大分大学），
畠山　久（東京工業大学），福田博人（岡山理科大学），
増田有紀（東京成徳大学），向　平和（愛媛大学），
山中真悟（福山市立大学），山本輝太郎（金沢星稜大学）

国際学会参加報告(66)

2022 EASE International Conference

2022 年 7 月 25 日・26 日に，East-Asian Association in Science Education (EASE)の国際学会である，2022 EASE International Conference がオンラインで開催された. 大会では 4 件の基調講演と 67 件の口頭発表，27 件のポスター発表が実施された.

EASE では，これまで 2 年に 1 回，国際大会を開催してきたが，COVID-19 パンデミックにより，2020 年大会が延期され, 2021 年のオンライン開催（ホストは静岡大学）に続いてのオンライン開催となった. 今回のホストとなった韓国：Kyungpook National University は当初，2020 年大会の担当予定校であり，通常よりも長い数年にわたる準備期間を経て実施された大会だった.

加えて，本大会から口頭発表の内容を発展させた論文による雑誌，「EASE Letters」が発行されることが発表され（2022 年 12 月に発刊されている：https://easeletters.org/cms/ ），国際大会における研究活動の発展を強く感じる大会となった.

また，EASE では博士課程の学生を対象としたサマースクール（オータムスクール/ウィンタースクール）を実施しており，当該プログラムに参加した学生が学びの成果を活かして口頭発表にチャレンジするなど若手の養成にも力を入れている.

なお，次回大会は 2024 年にインドネシアでの開催で，2018 年の台湾開催以来のオンサイト開催にむけて準備が進められている.

（黒田友貴・静岡大学）



国際学会開催情報

2023 年

The International Council of Associations for Science Education (ICASE) 2023

開催地：Amity University – Dubai Campus, Dubai, UAE

期間：2023 年 3 月 27 日-3 月 30 日

https://cies2023.org/

NARST 2023 ANNUAL INTERNATIONAL CONFERENCE

開催地：Hilton Chicago, Chicago, USA

期間：2023 年 4 月 18 日-4 月 21 日

https://narst.org/conferences/2023-annual-conference

13th Congress of the European Society for Research in Mathematics Education (CERME13)

開催地：Budapest, Hungary

期間：2023 年 7 月 10 日-7 月 14 日

https://cerme13.renyi.hu

46th Conference of the International Group for the Psychology of Mathematics Education (PME46)

開催地：Haifa, Israel

期間：2023 年 7 月 17 日-7 月 21 日

https://www.igpme.org/annual-conference/

The 15th Conference of the European Science Education Research Association (ESERA 2023)

開催地：State-of-the-art convention center, Nevşehir, Turkey

期間：2023 年 8 月 28 日-9 月 1 日

https://www.esera2023.net/

The 21st International Conference on the Teaching of Mathematical Modelling and Applications (ICTMA21)

開催地：兵庫県淡路市

期間：2023 年 9 月 10 日-9 月 15 日

https://ictma21.jp

2022 年度 日本科学教育学会研究会（若手活性化委員会開催） 報告

2022 年 12 月 18 日（日）に,「次世代の科学教育研究」をテーマに若手活性化委員会担当の第 4 回研究会が開催されました．研究会は明治学院大学およびオンラインのハイフレックス形式で開催し，参加者 121 名（対面：70 名，オンライン：51 名）と，たいへん盛り上がった研究会となりました．

今年度は新たな試みとして,「託児所」を設けました．利用者の方からは「子どもたちは，いつも過ごしている環境と違っても,とても機嫌よく過ごしており,遊び足りないくらい楽しかったと言っていました.」,「安心して学会に参加できました.」といった温かいお言葉をいただきました. 今後，より多くの方に研究会等に参加していただくためにも，このような新たな試みも取り入れていきたいと思います.

１．企画

「学校現場と研究」をテーマとしたワークショップ「教育と研究のあいだ」を実施しました．ゲストスピーカーとして，島智彦先生（神奈川学園中学高等学校），俣野源晃先生（神戸大学附属小学校），下村早紀先生（島根大学教職大学院），森田直之先生（東京都立科学技術高等学校）をお招きし,「研究活動と教育実践の結びつき」を大テーマとして話題提供・クロストークをしていただき，参加者を交えた小グループごとにディスカッションを行いました. 参加者からは,「今後のキャリアを考えるうえで参考になった」,「最新の研究や学校の環境など，学会や研究会へ参加すると情報を得られる」,「研究と現場をどのように繋げるかについて様々な意見が聞けてよかった」といった感想をいただきました．このようなワークショップを企画し実施できたことは，研究会のより一層の充実につながったように思います．ご参加いただき，誠にありがとうございました.

２．研究発表

研究発表は対面が 33 件，オンラインが 11 件で，三部に分けて研究発表を行いました．毎年恒例のマッドネスから始まり,「30 秒程度の動画形式」という制限の中で行われ，発表内容を巧みに伝える, YouTuberのような高いクオリティの動画を作成された発表者もみられました. 参加者からは,「面白い研究も多く，とても楽しかった．教室を移動してバタバタするのも，懐かしさがあった」,「いい緊張感で発表をすることができた」,「有意義な時間を過ごすことができた」といった感想をいただきました. また, 初めて研究会へ参加された方からは「発表も面白いものばかりで興味深かった．来年は自分も発表したいと思った.」といった感想もいただき，運営側としても大変嬉しく思います.

一方, オンラインセッションにおいて,「音声が聞き取れないことがあった」,「やや分散していた」等，実施環境に関わる問題点のご意見をいただきました．お寄せいただいたご意見は，今後の研究会運営向上のために役立てさせていただきます．アンケートにご協力くださり，誠にありがとうございました.

参加者投票の結果，ベストプレゼンテーション賞に選ばれた方は以下の 6 名でした．おめでとうございます．

【ベストプレゼンテーション賞受賞者】

荒谷航平（静岡大学附属島田中学校）：若手の中学校理科教師／科学教育研究者のオートエスノグラフィー―理科教師の〈ふり〉に着目して―

新井拓夢（茅野市立豊平小学校）：パターンブロックを活用した乗法九九の創造的な学びの一考察

安藤優希（都留文科大学文学専攻科）：数学的モデリング能力を高める授業づくりに関する研究―ダイヤグラムの教材化を通して―

下平剛司（Science Education Book Club in Japan）：科学教育におけるマンガについての理論的検討―科学とフィクション，学習マンガと娯楽マンガの観点から―

中村大輝（広島大学）：科学教育における機械学習を用いた評価方法の現状と課題

長沼祥太郎（九州大学）：高校３年生の興味プロフィールについての基礎的検討





研究会の様子

３．その他

情報は，若手活性化委員会 Facebook ページやメーリングリストで続々公開しております．どうぞご期待下さい．

Facebook ページやメーリングリストの登録は，随時，受け付けています．ぜひご登録ください．

◯若手活性化委員会 Facebook

https://www.facebook.com/jssewakate/

◯JSSE 若手研究者メーリングリスト登録 URL

https://goo.gl/tClQb4

（西内舞：国立教育政策研究所）

編集委員会だより

「科学教育研究」編集状況報告

1．新規投稿論文（2022.11.1～2023.1.31）：25 編

【内訳】

和文 25 編，英文 0 編

2．査読中論文（2023.1.31 現在）：30 編

【内訳】

担当編集委員選出中：1 編

査読者選出中：1 編

査読中（1 回目）：7 編

担当編集委員による第 1 審総合判定中：5 編

改訂稿待ち：6 編

査読中（2 回目）：5 編

担当編集委員による第 2 審総合判定中：3 編

編集委員長による最終判定中：2 編

3．掲載決定論文（2022.11.1～2023.1.31 現在）：4 編

【内訳】

研究論文：3 編

総説・展望：0 編

資料：1 編

プラザ：0 編

【合計】

46-1 号：4 編（通算 4 編）

47-2 号：0 編（通算 0 編）

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

(2023年1月31日　現在)

	新規投稿論文数（編）		審査中（編）		掲載決定論文数（掲載号）		招待論文数（掲載号）		掲載不可論文数（見なし取り下げを含む）	
	和　文	英　文	和　文	英　文	和　文	英　文	和　文	英　文	掲載不可	取り下げ
2020年　2月	6	0	19	1	4 (44-2) 0 (44-3)	0 (44-2) 0 (44-3)	0 0		4	0
2020年　3月	11	2	24	2	2 (44-2) 0 (44-3)	0 (44-2) 0 (44-3)	1 0		5	0
2020年　4月	30	0	42	2	1 (44-2) 0 (44-3)	0 (44-2) 0 (44-3)	1 0		10	1
2020年　5月	7	0	42	2	0 (44-2) 0 (44-3)	0 (44-2) 0 (44-3)	0 0		6	1
2020年　6月	2	0	33	0	0 (44-3) 0 (44-4)	0 (44-3) 0 (44-4)	0 0		13	0
2020年　7月	8	0	33	0	4 (44-3) 2 (44-4)	0 (44-3) 0 (44-4)	0 0		2	0
2020年　8月	9	0	33	0	4 (44-4) 0 (45-1)	0 (44-4) 0 (45-1)	0 0		4	1
2020年　9月	9	0	30	0	8 (44-4) 0 (45-1)	0 (44-4) 0 (45-1)	0 0		4	0
2020年　10月	15	0	38	0	2 (44-4) 1 (45-1)	0 (44-4) 0 (45-1)	0 0		3	1
2020年　11月	5	0	34	0	4 (45-1) 0 (45-2)	0 (45-1) 0 (45-2)	0 0		5	0
2020年　12月	6	0	28	0	2 (45-1) 0 (45-2)	0 (45-1) 0 (45-2)	0 0		10	0
2021年　1月	8	0	27	0	1 (45-1) 3 (45-2)	0 (45-1) 0 (45-2)	0 0		5	0
2021年　2月	4	0	26	0	0 (45-1) 3 (45-2)	0 (45-1) 0 (45-2)	0 0		2	0
2021年　3月	11	0	23	0	7 (45-2) 0 (45-3)	0 (45-2) 0 (45-3)	0 0		7	0
2021年　4月	14	0	28	0	1 (45-2) 2 (45-3)	0 (45-2) 0 (45-3)	0 0		6	0
2021年　5月	6	0	25	0	0 (45-2) 3 (45-3)	0 (45-2) 0 (45-3)	2 0		6	0
2021年　6月	4	0	23	0	2 (45-3) 0 (45-4)	0 (45-3) 0 (45-4)	0 0		4	0
2021年　7月	8	0	27	0	2 (45-3) 1 (45-4)	0 (45-3) 0 (45-4)	0 0		1	0
2021年　8月	3	0	25	0	0 (45-3) 0 (45-4)	0 (45-3) 0 (45-4)	0 0		4	1
2021年　9月	3	0	22	0	0 (45-3) 3 (45-4)	0 (45-3) 0 (45-4)	0 0		3	0
2021年　10月	6	0	18	0	1 (45-4) 2 (46-1)	0 (45-4) 0 (46-1)	0 0		6	1
2021年　11月	13	0	29	0	0 (45-4) 0 (46-1)	0 (45-4) 0 (46-1)	0 0		2	0
2021年　12月	6	0	30	0	2 (46-1) 0 (46-2)	0 (46-1) 0 (46-2)	0 0		3	0
2022年　1月	6	0	24	0	1 (46-1) 2 (46-2)	0 (46-1) 0 (46-2)	0 0		9	0
2022年　2月	5	0	24	0	2 (46-2) 0 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	0 0		3	0
2022年　3月	17	0	29	0	5 (46-2) 1 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	0 0		5	1
2022年　4月	15	0	38	0	0 (46-2) 0 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	0 0		5	1
2022年　5月	7	0	40	0	0 (46-2) 1 (46-3)	0 (46-2) 0 (46-3)	0 0		4	0
2022年　6月	8	0	44	0	1 (46-3) 0 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	0 0		3	0
2022年　7月	4	0	31	0	1 (46-3) 7 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	0 0		9	0
2022年　8月	11	0	28	0	0 (46-3) 4 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	0 0		8	1
2022年　9月	4	0	21	0	0 (46-3) 9 (46-4)	0 (46-3) 0 (46-4)	0 0		2	0
2022年　10月	11	0	25	0	0 (46-4) 0 (47-1)	0 (46-4) 0 (47-1)	0 0		6	1
2022年　11月	12	0	31	0	0 (46-4) 1 (47-1)	0 (46-4) 0 (47-1)	0 0		4	1
2022年　12月	6	0	34	0	1 (47-1) 0 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	0 0		2	0
2023年　1月	7	0	30	0	2 (47-1) 0 (47-2)	0 (47-1) 0 (47-2)	0 0		9	0

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 261 号をお届けします．一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら，学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ，お知らせください．

担当理事： 森田裕介（早稲田大）　大貫麻美（白百合女子大）

委　　員： 加納　圭（滋賀大）　三宅志穂（神戸女学院大）　雲財　寛（日本体育大）
稲田結美（日本体育大）　黒田友貴（静岡大）　江草遼平（千葉商科大）
西内　舞（国立教育政策研究所）

幹　　事： 谷塚光典（信州大）　榎本哲士（北海道教育大）　後藤みな（山形大）

科学教育研究レター編集　日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会　Japan Society for Science Education

ＵＲＬ： *http://www.jsse.jp*
□ 事務局　中西印刷（株） 学会部　内　ＴＥＬ：075-415-3661　ＦＡＸ：075-415-3662
E-mail : *jsse [at mark] nacos.com*
〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入ル
□編集事務局（論文投稿・査読編集）　ＴＥＬ：075-415-3155　ＦＡＸ：075-417-2050
E-mail : *jsse-hen [at mark] nacos.com*
中西印刷（株） 学会部　内　〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入ル
郵便振替口座：00170-6-85183　日本科学教育学会
銀 行 口 座：みずほ銀行 京都中央支店　普通 2269008　日本科学教育学会